

下郷コレクションにおける深鉢形土器の一例

別所 鮎実

はじめに

大阪歴史博物館に収蔵されている下郷伝平コレクションには明治・大正期に歯科医であり、古物収集家でもあった高島多米治（唯峰）の収集物が多く含まれている。高島の採集地は関東地方から東北地方にわたり、時には自ら発掘、報告をした。その中には茨城県椎塚貝塚や福田貝塚、千葉県余山貝塚など、学史上著名な遺跡も含まれている。そうした高島の収集物の一部が下郷共済会を経て大阪歴史博物館に収蔵され、「下郷コレクション」となっている [阿部他 2011、加藤 2012]。

今回、下郷コレクションのうち余山貝塚関連資料についての報告をするにあたり、縄文時代後期中葉に比定される深鉢形土器の一例について実見し、資料報告をする機会を得た^{〔註1〕}。以後、「本例」と呼称する資料は「A79-4」という整理番号が振られている。

本論では、本例の内容を観察し、その型式学的位置づけを検討する。

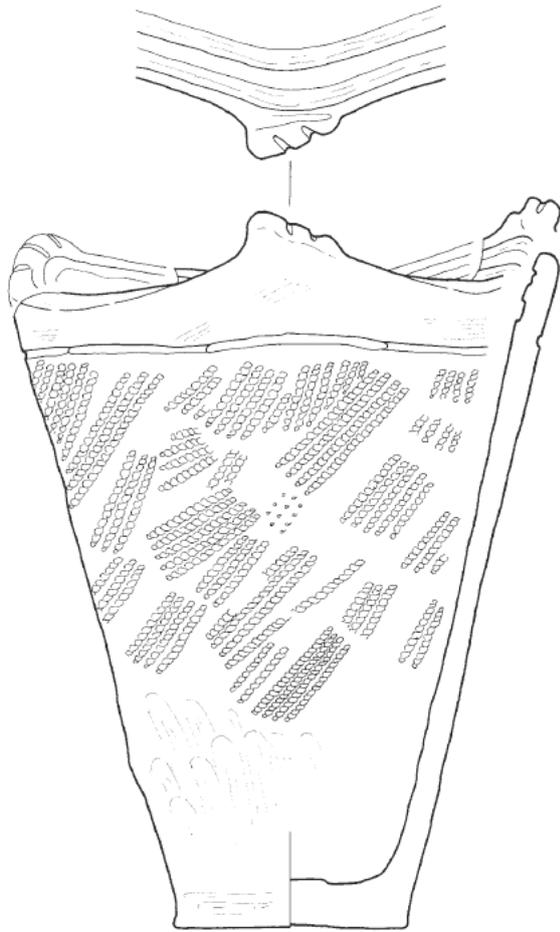
1. 資料の特徴

本例（第1図）は3単位の波状口縁の深鉢形土器であり、波頂部には突起をもつ。突起の1つと口縁部の一部が欠落しているが、ほぼ完形の資料である。底部から口縁部までくびれることなく直線的に開く器形であり、口縁部は内側に屈曲することはない。口径 14.2cm、器高 18.6cm、底径 6.1cm である。突起は波頂部に粘土を貼りつけ、工具で上部から土器の内面部にかけて刻みを2本入れて3分割している。刻みの間隔はほぼ均等だが、正面に向かって左端が一番高くなるように粘土が貼りつけられており、そこを頂点として左右に下がる三角形を呈する。突起の2つは遺存しているが、1つは欠落している。口縁部内面には、波状を呈する口縁部に沿うように深く稜の明確な2条の沈線がめぐる。

外面の文様は口縁部一帯が無文であり、1本の沈線で横方向に区画された以下にLRの縄文が横位に施文される。縄文の原体の節は粗くはない。口縁部付近の無文部は磨かれているが、その前段階に左下から右上にかけて斜め方向になでを施した痕が残る。沈線は反時計回りに施文されており、第1図の正面の突起（▼印）下のやや左側にあたる部分が施文の終点になっている。縄文が施文されているのは沈線以下から胴部下半までであり、底部付近は粗くなでられた後に磨きが施され無文である。底部側面のなで、磨きは共に横方向に行われている。底部に網代痕や木葉痕は見られず、磨かれてはいるが、やや凹凸がある。

胎土は比較的緻密であり、色調は黄褐色を呈し、焼成は良好である。

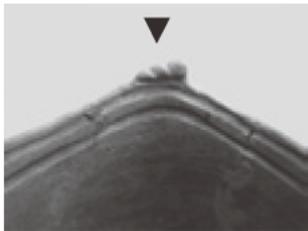
本例の注記には注意を要する。本例は前回の福田貝塚・椎塚貝塚の研究報告書において「余山／薬師台」の2つの注記があるものとしてリストに組み込まれている [大阪歴史博物館 2012；p.19]。今回改めて資料を実見した結果、新たに「福田」の注記が認められた^{〔註2〕}。つまり、本例には「余山／薬師台／福田」という3つの注記がなされているのである。ただし、「薬師台」貝塚は福田貝塚の一部であり、「薬師台」、「福田」の2注記は同じ遺跡の別地点を指している。注記の位置としては、「



正面（実測図）



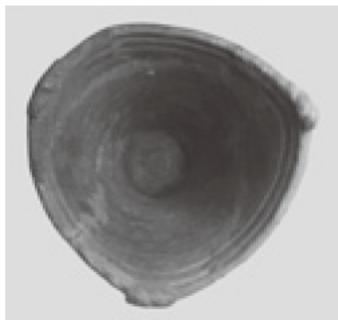
正面（拓本）



口縁部内側（写真）



底部（写真）

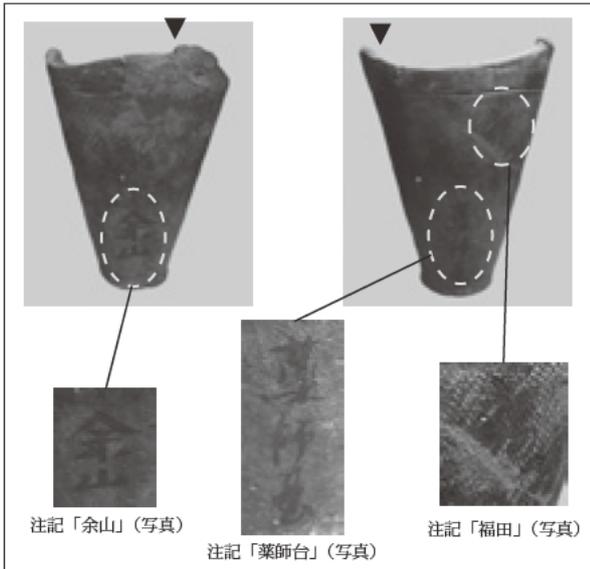


内面（写真）



正面（写真）

第1図 下郷コレクション土器 A79-4



第2図 本例の注記「余山／薬師台／福田」の位置

福田」及び「薬師台」はかなり近い部分に記されており、「余山」はそれらの反対側に位置する（第2図）。

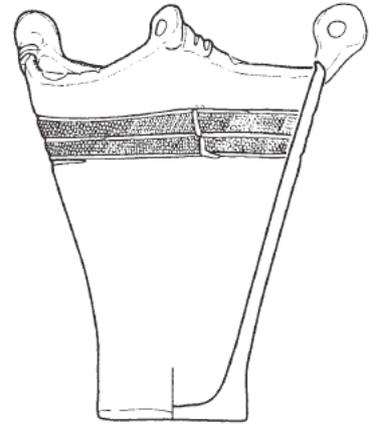
2. 本例の型式学的検討

1) 本例の型式学的位置

本例はほぼ完形に近い深鉢形土器であるが、文献に取り上げられる機会は少なかった。1986年に国学院大学考古学資料館より発行された『余山貝塚資料図譜』において、図版番号007として写真と解説文が掲載されたことが例として挙げられる。「3単位の波頂部突起をもつが、平行沈線帯がなく、口縁部内面に沈線帯の名残がある。口縁から底部まで殆ど

直線的に結ぶ器形から」加曾利B1式の中でも古い時期の土器である、と本例は捉えられていた。[国学院大学考古学資料館1986；p.153] また、安孫子昭二氏は掲載土器資料を時期別・器種別に分けた表において、本例を加曾利B1式の半精製土器として扱っている。安孫子氏は器種の分け方について「深鉢の類は、ここでは器面の装飾に重きをおき、精製、半精製、粗製としたが、便宜的なものである」[安孫子1986；p.119]としている。

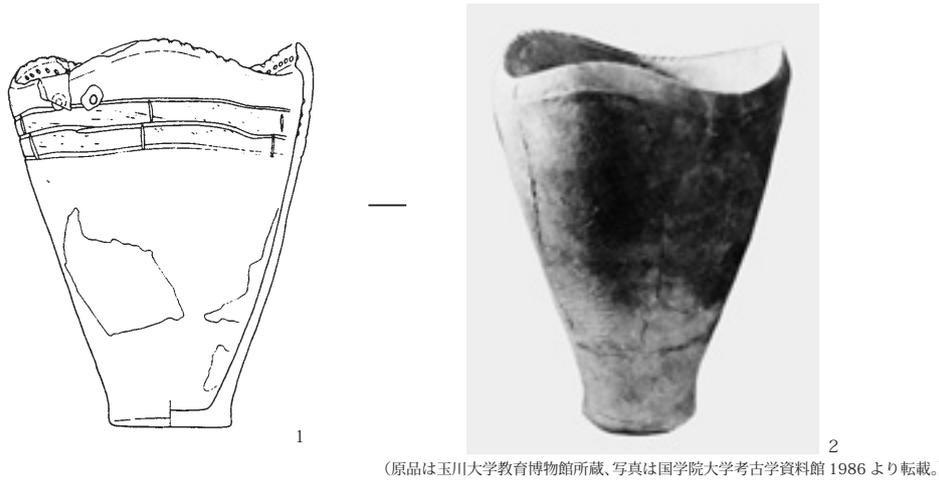
本例の型式学的位置づけを行う際の参考資料として、陸平貝塚例を挙げる。第3図は3単位の突起付波状口縁の精製深鉢であり、口唇部には刻みを施し、体部には縦線の区切文を有する平行沈線横帯文がめぐる。横帯文の区切文や縦位の耳状突起の特徴から、加曾利B1式でも古い部分に比定できる。3単位の突起を持ち波状の口縁部を呈する器形は本例と共通する。工具による刻みを加えた左右非対称の山形突起は、立体的な陸平例から平板化した本例へ変遷すると考えられる。口縁部断面形態は、陸平例では内面沈線が発達していないが、本例では稜の明確な2条の沈線がめぐる^{〔註3〕}。こうした特徴から、本例は加曾利B1式の中でも陸平例よりも新しい段階にあたると考えられる。



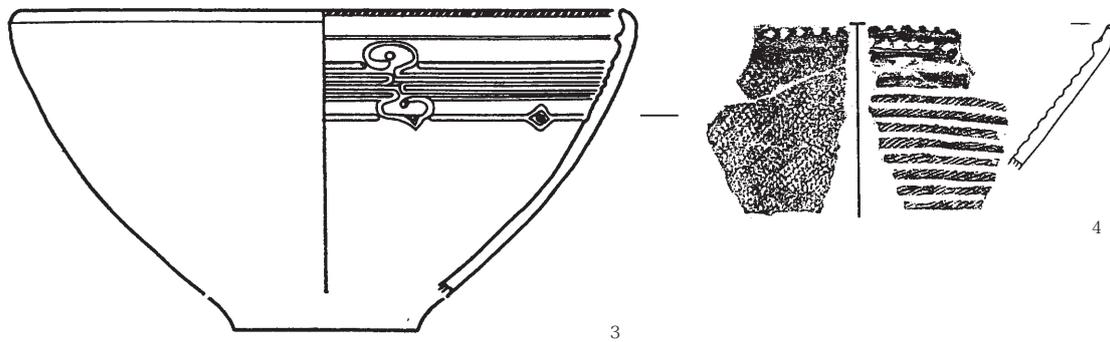
第3図 陸平貝塚例 (S=1/3)

2) 本例からみる関東地方東部の地域性

縄文時代後期中葉加曾利B1式に比定される本例の3単位突起付波状口縁深鉢という器形は精製土器として捉えられるものである。それに対して器体外面の文様は、文様帯を意識したように沈線が横位にめぐり、無文部と縄文施文部を区画しているが、いわゆる精製土器の文様帯とは異なる。こうした装飾性に乏しい文様構成から、安孫子氏は「半精製」としたのだろう。本例のように精製土器の器形でありながら文様帯を形成しない土器は、東関東の加曾利B式には複数の事例が存在する。これらは各々対応する精製土器と共に器種構成の一部を為している（第4図）。口唇部に刻みを有する3単位の波状口縁深鉢である、余山貝塚出土の例は口縁部の屈曲以下に縄文が施文されるのみの文様構成である（第4図2）。これは内文を有し外面に区切文をもつ平行沈線横帯文が施文される1と、口



(原品は玉川大学教育博物館所蔵、写真は国学院大学考古学資料館 1986 より転載。)



第4図 関東地方東部における加曾利 B1 式土器器種の二様相
(S=1/4 1 祇園原、2 余山、3 中野僧御堂、4 吉見台 A)

縁部断面形態をはじめとして型式学的にはほぼ対応するものである。4の吉見台遺跡A地点出土の例は、内文を有する浅鉢形土器である。3のようないわゆる精製土器の内文浅鉢は外面が無文であるのに対して、4は外面に縄文を施文している点が特徴的である。こうした器種間関係は関東地方西部では認められず、関東地方東部の特色として指摘できる可能性がある。

おわりに

明治・大正期の収集されたコレクションは珍品や小型品が多くを占めるなかで、本例のような土器も収集品に含まれていることはコレクションの意義を考える上でも注目すべき点である。戦前に収集されたこうした資料は、縄文土器型式研究を推し進めてきた名立たる研究者たちの目にも触れたはずだ。しかし、縄文時代後期における土器の型式研究は文様帯が明確な精製土器や地域差が顕著な紐線文土器を対象にしたものが主であり、本例のような土器は取り上げられることは少なかった。個々の土器の編年や地域性の研究が一定程度進んだ後には、土器群全体を対象にしての変遷や地域性の研究が望まれる。そうした中で、資料を単一の土器としてみる場合と、土器群全体の一部として捉える場合とで導き出せる情報の質が異なることを、本例の検討によって見出すことができた。

【註】

(1) 本論掲載の本例の実測図及び写真は大阪歴史博物館において、筆者が実測、撮影を行なったものである。

- (2) 大阪歴史博物館の加藤俊吾氏にご指摘いただいた。
- (3) 本例の口縁部内面にめぐる2条の沈線については、精製土器というよりはむしろ加曾利B式粗製土器の紐線文土器のそれに類似していると、吉岡卓真氏よりご指摘いただいた。

【参考文献】

- 安孫子昭二 1986 「余山貝塚の土器」『余山貝塚資料図譜』国学院大学考古学資料館 pp.113-131
- 安孫子昭二 1988 「加曾利B様式の変遷と年代(上)」『東京考古』6 pp.1-33
- 阿部芳郎他 2011 「考古コレクション形成過程に関する基礎的研究—下郷伝平コレクションにおける椎塚貝塚・福田貝塚資料の由来—」『駿台史学』第142号 駿台史学会 pp.85-110
- 阿部芳郎 2012 「縄文時代遺跡における活動痕跡の復元と時間情報—土器型式の制定にみる層位認識と遺跡形成に関わる問題—」『人類史と時間情報—「過去」の形成過程と先史考古学—』雄山閣 pp.187-212
- 市原市文化財センター 1999 『上総国分寺台遺跡調査報告V 祇園原貝塚』
- 印旛郡市文化財センター 2000 『吉見台遺跡A地点—市道I-32号線(吉見工区)埋蔵文化財調査に伴う発掘調査報告書—』
- 大阪歴史博物館 2012 『共同研究成果報告書6—「高島多米治と下郷コレクションについて(福田貝塚・椎塚貝塚編)」—』
- 加藤俊吾 2012 「近代における縄文時代コレクションの形成とその活用—高島多米治採集資料を題材として—」『土偶と縄文社会』雄山閣 pp.218-233
- 国学院大学考古学資料館 1986 『余山貝塚資料図譜』
- 鈴木正博 1981 「「加曾利B式(古)」研究序説」『取手と先史文化』下巻 取手市教育委員会 pp.3-156
- 千葉県文化財センター 1977 『千葉市中野僧御堂遺跡—千葉東金道路建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告1—(千葉市中野地区)』
- 美浦村教育委員会 2006 『茨城県稲敷郡美浦村陸平貝塚—調査研究報告書2・学史関連資料調査の成果—』